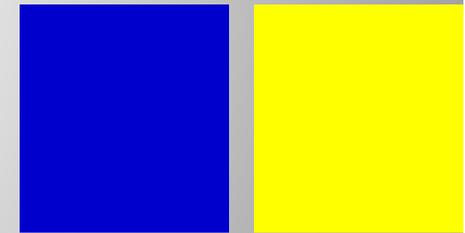




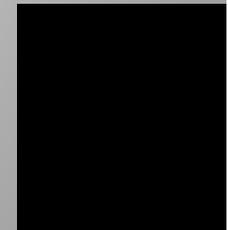
Global 30 Project Follow-up FY2012
大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業



2012年度フォローアップ



大阪大学
東島 清(理事・副学長)



-
1. 本事業の成果 p. 2～ p. 6
 2. 取組状況 p. 7～ p. 15
 3. 目標の達成状況 p. 16～p. 17
 4. 補助金の使用状況 p. 18
 5. 課題と事業終了後の見通し p. 19

1. 本事業の成果 特筆すべき成果と波及効果

- ◆ 英語コース（学部・大学院）の運営と支援体制構築
- ◆ サポートオフィスによるワンストップサービスの実現
- ◆ 国内他大学とのネットワーク形成と多様な連携・協働
- ◆ 関西地域の産官学の連携・協働



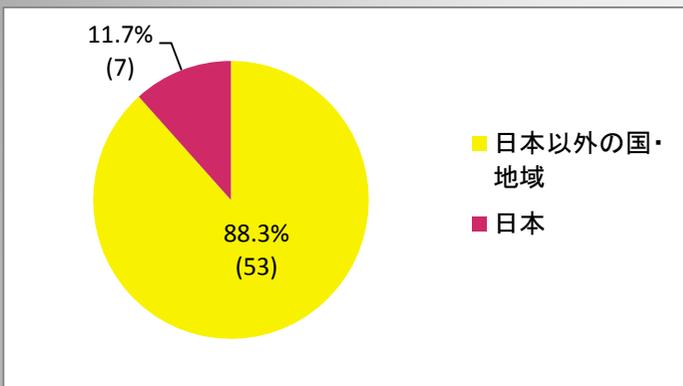
合同説明会（インド）にて
大阪大学の取組を発表



大阪大学・神戸大学・関西大学・関西学院大学による
国際化推進に向けたネットワーク形成に関する協定書調印式（大阪大学）

G30コース学生からの評価①

出身国



内訳(国名の記載があったもの:44名)

中国:13, ベトナム:4, インドネシア:4
 韓国:3, マカオ:3, アメリカ:3
 カナダ:2, イギリス:2, トルコ:2
 東南アジアの国:2, バングラデシュ:1
 エストニア:1, 香港:1
 インド:1, スーダン:1, ブラジル:1

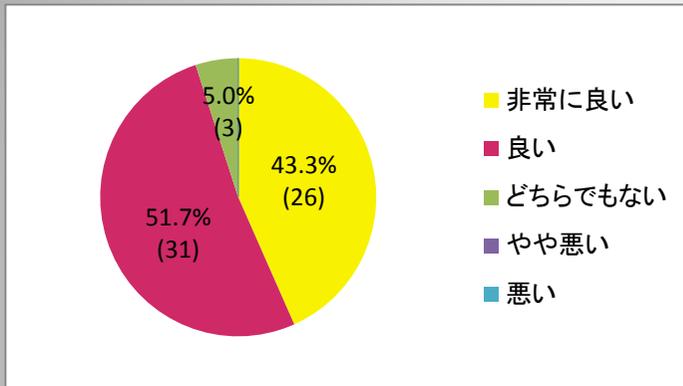
Aさん(学部コース)

このコースは選択の幅が広く、自分が興味のある分野の知識をいろいろ吸収できるのが面白いです。

また英語と日本語が同時に勉強できるのも魅力です。日本にしながら国際的な人間関係を築けるのがとてもいいです。



Q1 大阪大学留学の印象はどうか？

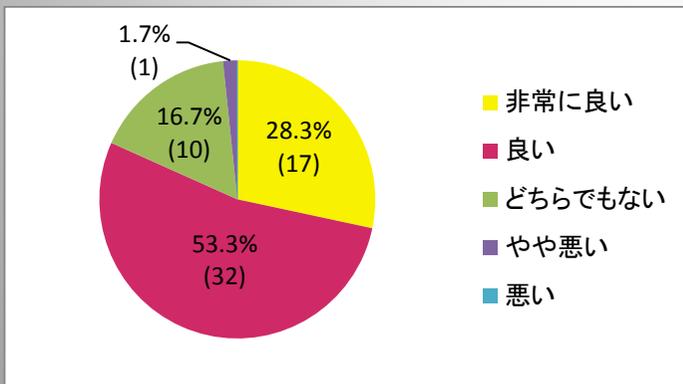


Bさん（学部コース）

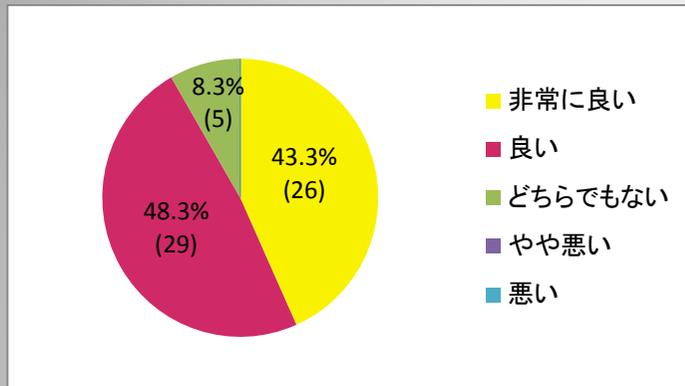
このコースには、様々な国の方が在籍しているので世界の縮図のようです。

1つのクラスの中に、それぞれの国の文化が存在しているのですが、文化から見えるステレオタイプの間人像と実際の間人は違うので、それを学べるのがこのコースの利点の1つだと思います。

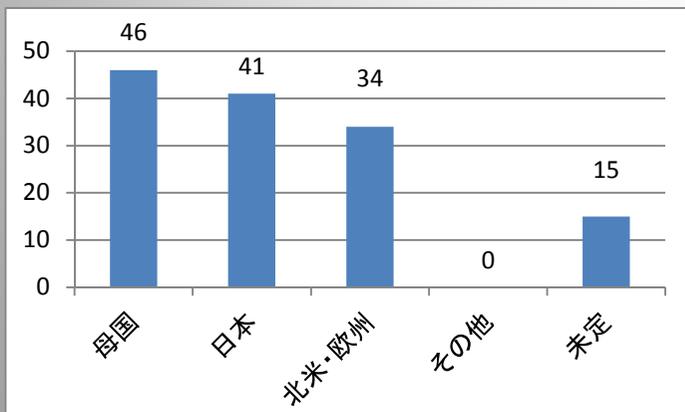
Q2 教員の英語力は十分か？



Q3 各種サポートは十分か？



Q4 将来、どこの国・地域に就職したいか？（複数回答可）



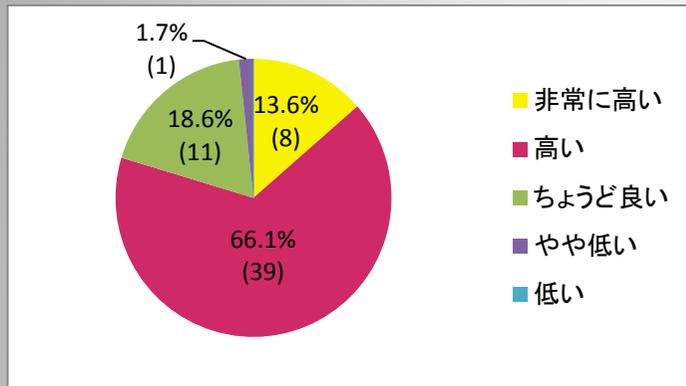
Cさん（大学院コース）

大学の学生へのサポートはとても手厚く、他のことを心配することなく、学業に専念できています。

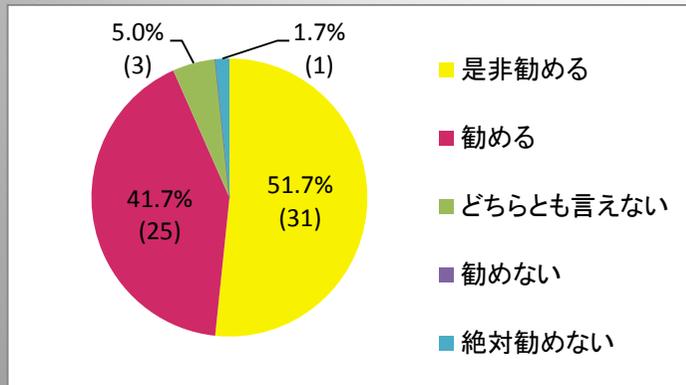
一つお願いするならば、入学時のオリエンテーションをもっと詳しくしてもらえると、より実りある学生生活が送れると思います。



Q5 教育内容のレベルはあなたにとって高いか低いかな？



Q6 母国の人に大阪大学を勧めたいか？



学生からの意見（今後の改善点）

- 日本での就職支援を充実してほしいです。
- 選択科目の種類をもっと増やしてほしいです。
- 日本人学生との交流の機会を増やしてほしいです。



国際化の取組体制

◆ 『大阪大学未来戦略(2012-2015)—22世紀に輝く—』

「世界を目指し、世界を目指すグローバル大学」へ

本学国際化の中軸としての「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」



◆ 事務組織の国際化

毎年継続的に職員を海外に派遣（累計60名以上）

本学独自の職員採用試験を実施（2011年度～）

◆ 評価の実施と改善

G30外部評価委員会（2012年度実施予定）

◆ 海外の大学との教育連携の充実

◆ S S、S V 事業の拡大

JASSOのS S、S V

27件・623人分（2012年度）
（全国2位・国立大学1位）

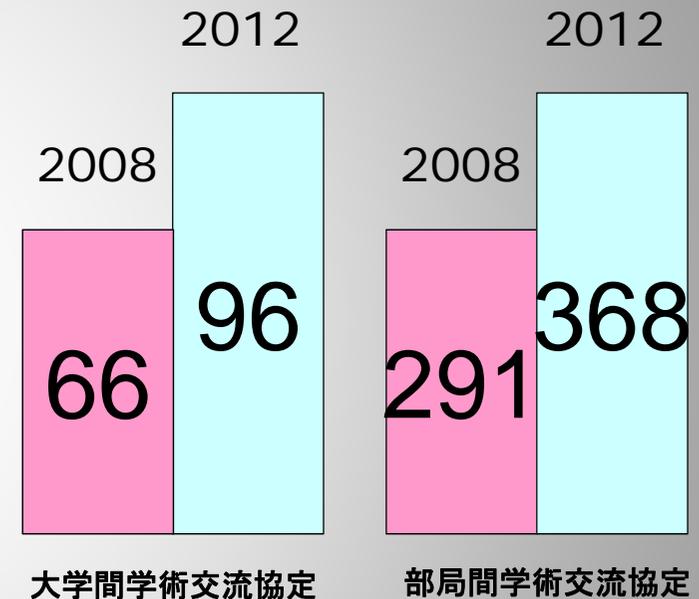
独自の海外研修派遣補助制度

16件・206人分（2012年度）

学内体制の整備

単位化ガイドライン

オリエンテーション、交流会



- ◆ 阪神地区大学国際化推進ネットワーク
（略称：阪神ネット）
合同留学フェア（タイ、ベトナム）
学生グローバルコンピテンスワーク
ショップ（2011年12月）



合同留学フェア（タイ）

- ◆ 産業界との連携
グローバル30産学連携フォーラム
グローバル人材活用研究会（関経連主催）
就職内定OB・OGによる就職体験
セミナーや企業セミナー



学生グローバルコンピテンスワークショップ
（大阪大学）

2. 取組状況 英語コース

		コース名	設置年月	募集人員	在籍者数
学部		人間科学コース	2011年10月	7	19
学部		化学・生物学複合メジャーコース	2010年10月	若干	44
大学院	博士前期	国際物理特別コース	2010年10月	5	7
	博士後期	同	2010年10月	5	7
大学院	博士前期	統合理学特別コース	2010年10月	4	13
	博士後期	同	2010年10月	6	24

教育の質保証

- ◆ 国際的な教育研究経験のある教員
- ◆ インターナショナルカレッジ
広報、入学選抜等での英語コース支援
教養教育科目の提供
- ◆ 組織的・体系的なカリキュラム編成
英の高等教育に準拠したカリキュラム構成
3.5年の早期卒業
学際的な授業開講
著名講師によるオナーセミナー
- ◆ 「教育の質保証ハンドブック」
- ◆ FDによる授業スキル向上



◆ 海外拠点網

センター長常駐
/学内派遣

拠点名	管轄地域	設置年
サンフランシスコ	北米	2004
グローニンゲン（オランダ）	欧州	2005
バンコク	東南アジア	2006
上海	中国	2010

◆ 拠点の機能

広報活動

リクルート活動（留学フェア参加・高校訪問）

G30コースの面接支援

研修・留学プログラムの企画・実施支援

国外有力大学との日常的接触

留学生受入れの取組

◆ 広報・リクルート体制の整備

広報・リクルートを担当する専任教員の配置

受入重点国の設定：

中国・タイ・ベトナム・米国・オランダ

広報・リクルート関連職員の間での勉強会

◆ リクルートのための具体的活動

JASSOはじめ各種団体主催の留学フェアに参加

海外の現地有力高校等、国内IB認定校を訪問

交流協定締結大学・有力大学を訪問

留学生に対する支援

- ◆生活面・経済面・修学面、キャリア形成支援面で多角的に支援
- ◆具体例

G30コース学生向けに国際交流会館内に30室を優先確保

G30コース入学志願者の検定料を不徴収

G30コース学生の成績優秀者の入学料・授業料を免除

元留学生体験談セミナーを開催

外部講師によるインターンシップ

講座を開催

サポートオフィスと留学生

交流情報室（国際教育交流

センター）の協働



中間評価への対応状況

◆ 中間評価の指摘：

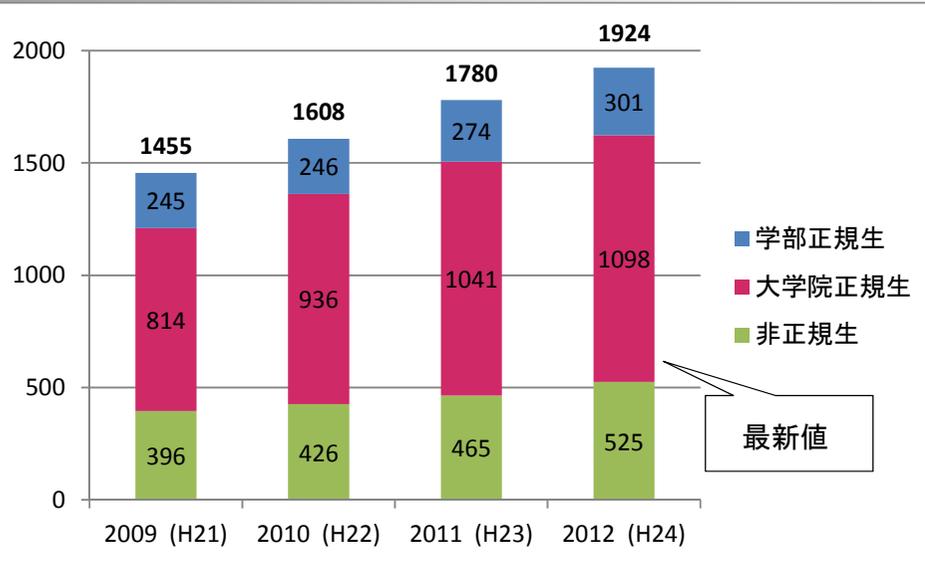
G30コース学生と日本人学生との交流促進
本事業の学内での認知度向上

◆ 以下の対応策を実施（もしくは予定）

G30科目を全学の共通教育で日本人学生にも受講開放
一部の実験・講義で日本人学生との共通クラスを開講
複数学部にもたがる研究室訪問、日本人学生との交流機会
G30科目を「大学コンソーシアム大阪」へ科目提供
学内広報誌等にインターナショナルカレッジの記事を掲載
G30コース教員を中心としたシンポジウムを実施

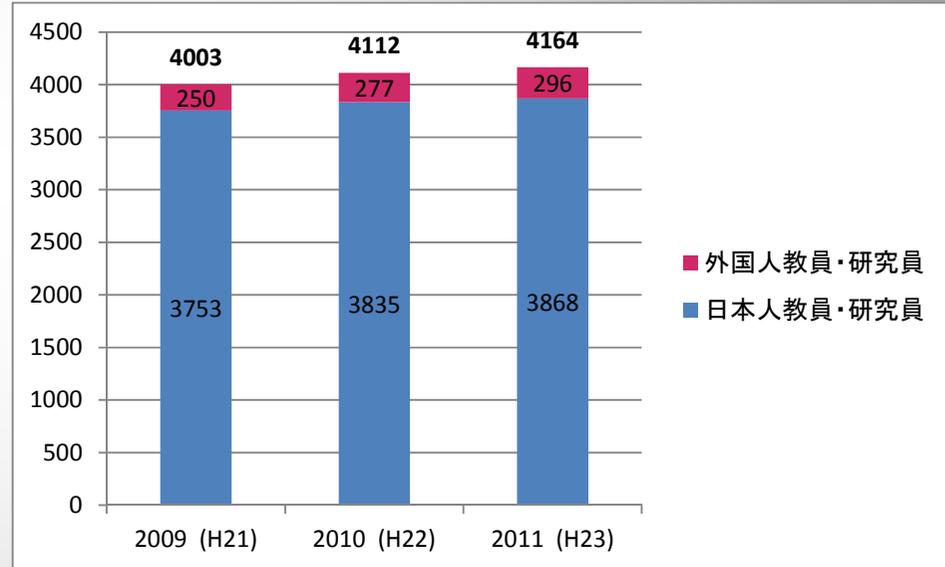
3. 目標の達成状況

留学生受入れ数



各年度5月1日現在

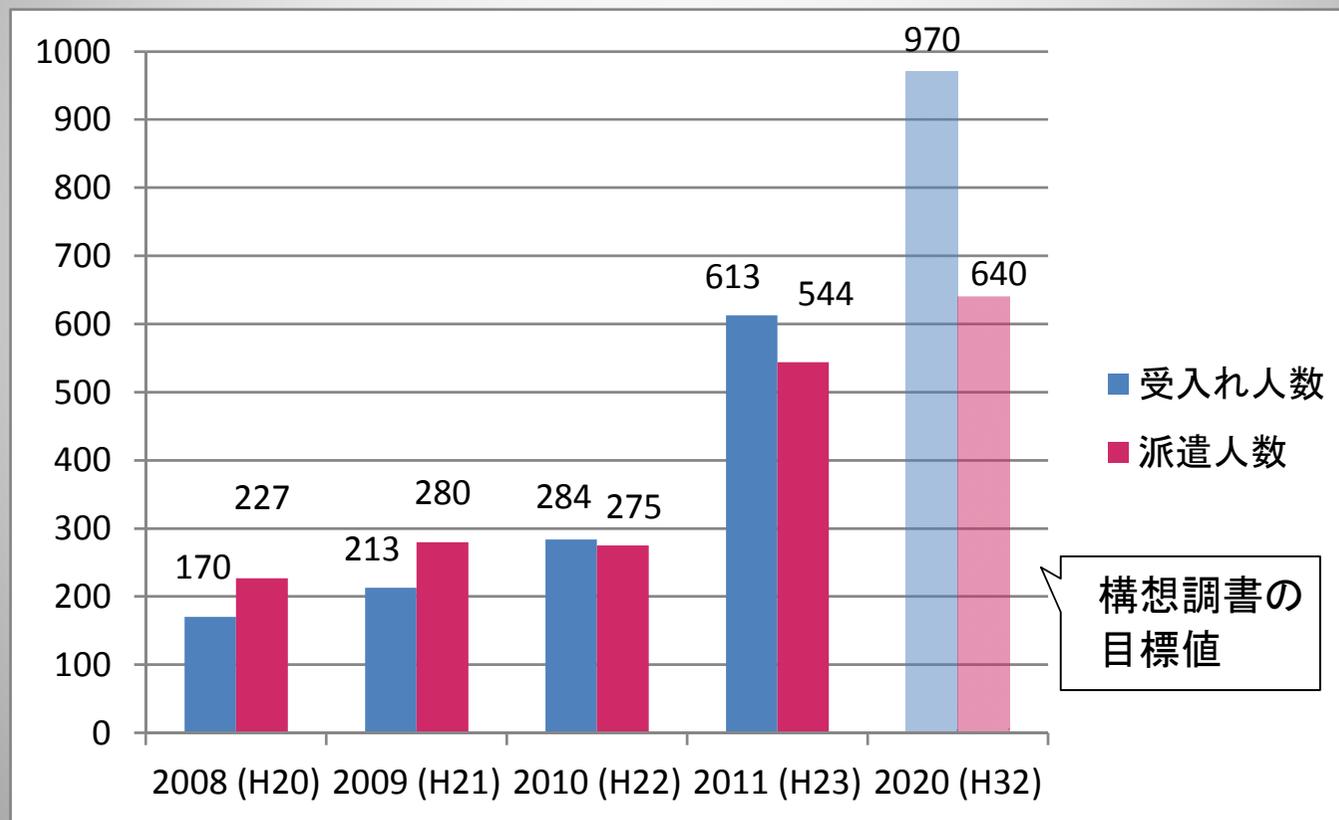
外国人教員・研究員数



各年度末現在

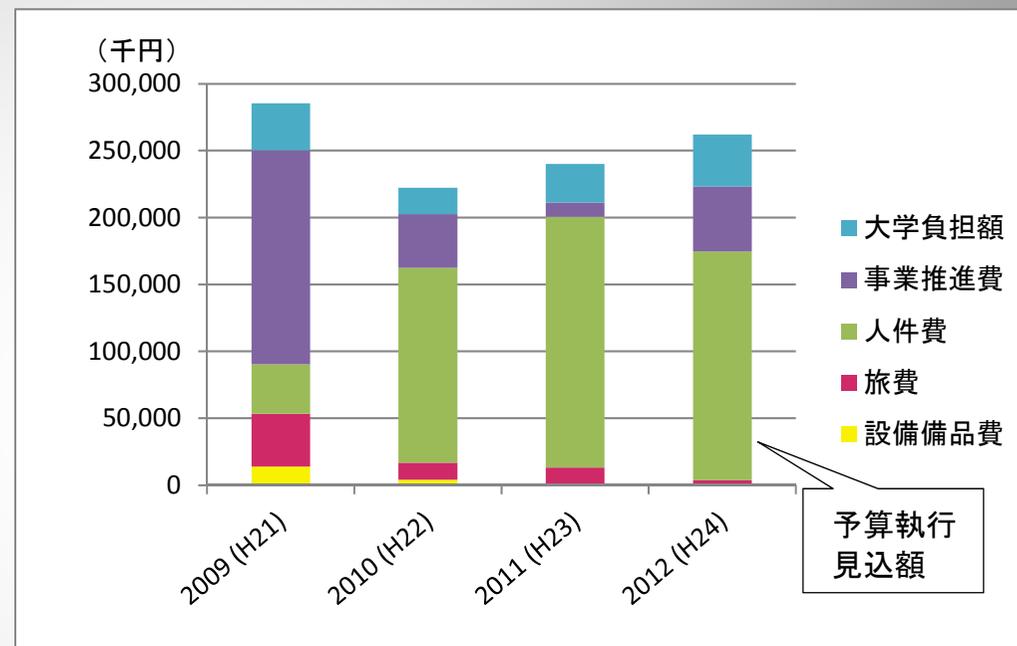
3. 目標の達成状況

交換留学の受入・派遣数



4. 補助金の使用状況

- ◆ これまでの使用実績
 - 国内外における広報とリクルート活動
 - 事業実施の基盤整備
 - 教職員の雇用
- ◆ 大学負担額の位置付け
 - 事業推進への補填
- ◆ 内部監査の実施状況
 - 各部署に予算照会⇒企画室会議・企画調整委員会で配分
 - 学内監査室の定期監査（毎年度定期的）



5. 課題と事業終了後の見通し

◆今後の課題と展望

- ①英語コースの継続実施
- ②優秀な留学生獲得と卒業・修了後のキャリア支援充実
- ③G30科目の学内開放、日本人学生の留学生との交流促進
- ④日本人学生の英語力向上と海外派遣推進
- ⑤大学間ネットワークの充実と教職員交流の深化

◆事業終了後の見通し

- ①私費留学生新コースの設置と学部留学生比率10%の実現
- ②日本人学生の英語力強化と海外派遣促進
- ③G30事業で雇用する外国人教員・研究者の継続雇用
- ④国際化推進事業実施のための新たな外部資金獲得

**本学のG30事業は、大学と教職員たちの
熱意に支えられています**

大阪大学